

福岡国際マラソン2023

【出場結果】

実施日 : 12月3日(日)

コース : 福岡朝日国際マラソンコース 平和台陸上競技場～福岡市西南部周回～香椎折り返し
(42.195 km)

出場者 : 加藤 平 親崎 達朗

リザルト:

	加藤	親崎
タイム	2:13'39" (セカンドベスト)	2:19'18" (自己ベスト)
順位	13/220名(完走者) (日本人4位)	21/220名(完走者)

【レポート】

昨年から新たな大会として再スタートした福岡国際マラソンですが、今年はマラソン日本代表選考レース「MGC ファイナルチャレンジ」として開催されました。

来年のパリ五輪代表は10月に行われたMGC(マラソングランドチャンピオンシップ)の上位2名が既に内定しており、最後の1枠を駆け福岡国際、大阪(2月)、東京(3月)の指定レースで設定記録2時間5分50秒以内を目指し、国内のエリートランナーが代表の座を懸けてレースに出場します。

当社からは準招待選手としてエントリーされた加藤、自身3回目のマラソンとなる親崎が自己ベスト更新を目指してレースに臨みました。

海沿いのコースとなるため、例年、強風が吹き荒れることが多いですが、今年は風速2m程の風に留まり、まずまずの気象コンディションでレースはスタートしました。

加藤は先頭集団でレースを進め、5kmを14分55秒で通過、直後の給水ゾーンで接触もあってマイボトルが落ちてしまい、取りに戻るアクシデントが発生、先頭集団からは少し離れた位置でレースを進めることになりました。



6km地点。先頭集団から少し離れた位置でレースを進める加藤

一方、親崎は1km 3分 10～15 秒前後で走る大集団でレースを進め、集団の中で余裕を持った走りが出来ていたため、中盤以降の走りにも期待が高まりました。



6 km地点。序盤はリラックスした表情でペースを刻む親崎

20 km地点までは単独走の中、1km 3分 5 秒程のラップで、レースを進めていた加藤でしたが、ハーフマラソンを1時間 4分 36 秒で通過したあたりで、第二集団に吸収され、再び集団の中でレースを進めることになりました。



18 km地点。単独走の中、まだまだ表情にも余裕を感じる加藤

中盤以降も大集団の中でレースを進めた親崎は、ハーフマラソンを1時間 8分 58 秒で通過し、2時間 20 分切りの自己ベストを目指すには理想的なペースでレースを進みます。



24 km地点。大集団の中で、余裕を持ってレースを進める親崎

中間地点を通過後は、第二集団でレースを進めていた加藤でしたが、ペースメーカーが1 kmを3分2秒程のペースに上げると、再び単独走となり30 kmを1時間32分58秒で通過、ここで走りに余裕が無くなり、残り12 kmは苦しい走りの中で脚が何度か攣って、その度に立ち止まるアクシデントに見舞われたものの、必死に粘り切り日本人4位となる総合13位2時間13分39秒のセカンドベストタイムでゴールしました。



日本人4位でのゴール！！おめでとう！！！！

親崎も30 kmを1時間38分18秒で通過してからは集団もバラけ始め、自身のペースでピッチを刻みましたが、最後まで大きくペースを落とすことなく走り切り、自己ベストとなる総合21位の2時間19分18秒でゴールしました。



親崎は自己ベスト更新の走り！おめでとう！！



【総評】

今回レースに臨んだ加藤、親崎ともに期待通りの走りを見せくれ、非常に価値のある結果を残してくれました。

序盤から先頭集団に果敢に挑んだ加藤は、先頭集団から離れた後も粘りの走りが出来ており、記録以上の強さを感じる事が出来たレースで、次回の東京マラソンでは本気でサブ10を目指してレースの臨んで欲しいと思います。

親崎も3回目のマラソンで2時間20分切りの自己ベストをマークし、30km以降も自分の走りが出来たことは、一つ殻を破った結果であり、今回得た自信を日々のトレーニングに結びつけて、次回の大阪マラソンでも自己ベストを狙って欲しいと思います。

引き続きまして、皆さまの温かいご声援を宜しくお願い致します。